

プロジェクト報告書

テーマ 「Support and Education」

活動チーム名: ふじ

ボーイスカウト静岡県連盟

所属団 浜松12団 ベンチャー隊

氏名 上林 明日翔

1. プロジェクトの目的

スカウトのサポート

2. 目的に対する結論(まとめ)

今回は、しっかりスカウトにサポートできたと思います。
まずは、立ち竈の作成時には、ロープ結びをしっかりスカウトにおしえてあげられました。
更に、食事の準備中には、火のつけ方や、野菜の切り方、米の炊き方を丁寧に指導できた
と思います。
ベンチャー隊の手伝いにより、ボーイ隊の技能が向上し、また、自分たちも他人に技能を
伝えるというスキルが向上しました。
今回のプロジェクトでは、自分が持っている力を他人に伝えるという難しさを実感すると
ともに、奉仕ということの大切さを学びました。
また、サポートするとはどういうことなのか。たとえば、1から手とり足とり教えていて
は、それは補助ではなくてもはや自分主体の活動になってしまう。であるから、スカウト
の活動の楽しさを減らしてしまうような補助は補助ではない。スカウトが活動に全力で取
り組めるようにすること、それがサポートなのであると思いました。

(プロジェクト報告書②)

3. プロジェクトに対して

① 反省

今回のプロジェクトでは、奉仕するという立場なのにも関わらず、毎朝寝坊して、リーダーに起こしてもらいました。あと、色々な虫に刺されてしまって、リーダーから薬を借りるようでは、奉仕としてまだまだだなと痛感しました。

② 評価

今回のプロジェクトで、スカウトを指導したことによって、自分たちの技能の足りない部分を見つけることが出来ました。また、その部分を補うことができました。

③ 感想と課題

年下のボーイスカウトにうまく指導できました。しかし、その指導の中で不十分な点や、行き届いてない箇所もあり、時には言うことを聞かないこともありました。だから、これからは的確に指導していきたいです。また、奉仕というのは、今回で終わりというわけではありません。困った人を見ているときは助けてあげて、逆に自分が大変な状況に遭っているときはほかの人にサポートしてもらおう。我々人間は、一人では絶対に生きていけません。だから、互いに助け合って、誰も不自由のない社会を目指していけたらいいなと思いました。

(プロジェクト報告書③)

4. チームワークに対して

① 反省

一番チームワークが乱れていたのは、撤収時だった。各自何をやればいいのか分からず、連携性というものがあまり見られなかった、奉仕をベンチャー全体でやっていくという意識が低かった。また、ベンチャーに予定外の仕事が割り振られた時、誰がどうするといったことで言い争っていて、協調性というものがあまりみられなかった。

② 評価

今回のキャンプは、食事の準備、汚水の処理、水くみなど、仲間と協力してやらなければいけない仕事があった、その時にも助け合い、スムーズに仕事を終わらせることができた。また、特定の個人への負担が大きくなるように、フリーな時間がみんなできるだけ多く取れるように配慮することができた。

③ 課題

今回のキャンプでは、チームとして自発的な行動がなかった、そのため次からはチームとして積極的にしていきたい。自分は、突出した個人技能よりも、チームワークというものがキャンプに限定せず、一般生活でも重視されると思うので、チームワークというものをしっかりと意識してこれからの野外活動に臨みたい。

5. 個人の目標(資質の面)に対して

①反省

今回は、奉仕するという立場にあるにも関わらず、奉仕すべき箇所で何回も怠ってしまった。これは、自分の立場を理解していないということの証だろう。また、意欲的に手伝いに参加することができなかった。せつかくこういう機会を与えられたのだから、積極的に活用していかなければいけないと後悔した。あと、寝坊やトランプをやっていて遊んでいたという時間も少なからずあったので、自分の行動に責任をもっていきたいと思った。

②評価

スカウトが食事の準備をしているときは、サイトに積極的に赴いて野菜を切ったり、火おこしをしたりということをした。また、最終日の撤営では、例にないがんばりを見せた。今回、最たるものは開会式での日本国旗掲揚をさせていただいたことだろう。しっかりできるかどうかは分からなかったが、リーダーに一重つぎを覚えてもらいながら、なんとか失敗することなく終えることができた。このような多くのスカウトが集まる場で、貴重な体験ができたことを本当に感謝している。

③課題

奉仕とは、何なのかということをもう一度しっかりと考えてみる必要があると感じた。抽象的な定義に騙され、任務をこなしていくだけでは、真の成果を得ることができない。言葉の核心に迫って、再確認することで、また別のテオリーが生まれるかもしれない。いわゆるエポックメイキングの誕生というのもこうした本当に大事な箇所を疎かにしなかったからだろう。だから、奉仕についてじっくりと考えてみたい。

◇隊長の評価

奉仕隊ではなく、参加隊のバンチー参加は、初めてであり、参加隊隊長(リーダー)の評価は本人も反省し70点程度に、積極的な奉仕にはいたっていい。

一方プロジェクトでは、参加隊バンチーの7-7として話せて、フルエがまがでリーダーが多忙な撤営時には十分な話が出来た。

2009年8月27日
隊長名 西村清矢

フォーラム課題

『環境問題について個人でできる事、隊でできる事』

上林

個人:ゴミを拾う

隊:ポイ捨てをしない

徳森

個人:人の事を考える

隊:きちんとする

丹羽

個人:ゴミの分別

隊:皆で協力する

宮本

個人:ペットボトルの使用を控える

隊:詰め替え式の調味料や洗剤を使う

四方

個人:環境に配慮して活動する

隊:環境に配慮して活動する

三浦

個人:ゴミをなるべく出さない

隊:環境について話し合う

活動記録

8月12日



国旗入場



夕食



班長会議

8月13日



道づくり



暇つぶしのトランプ



富士地区との隊交歓会

8月14日



隊本部の朝食



ボーイ隊の食事作りサポート



汚れた雨具のお洗濯

8月15日



撤収



帰りのバスの中



散！！